

職人たちのこだわり

# 01

伝統工芸士が「宙吹き」の技法で描き出す、四季の情景。



金型を使うことなく、吹き竿の先に溶けたガラスを巻き取って、息で吹きながら形づくる「宙吹き」の技法。紀元前より受け継がれてきたこの技法を守りながら、青森県の伝統工芸士である芳賀は日々津軽びいどろを生み出しています。

「ガラスが動きたい方向へ導いてあげると、きれいなカタチになる」。

1200度にもなる溶けた赤く柔らかいガラスを扱い、吸い込む空気さえ熱い炉の前。見た目以上に重く扱いが難しい竿を体の一部のように操りながら、芳賀はガラスで四季を表現していきます。

「青森は自然が本当に豊か。その美しさを、少しでもガラスから感じてもらえれば」。

毎日工房へ向かう道すがらや散歩をしているとき、そこにいつも四季の彩りがある青森。そこで目にした情景を、多彩な色をもつ津軽びいどろであれば描き出すことができる、それが芳賀の意気込みでもあります。

「最近では若手の職人も育ってきている。彼らの作品や色合いには、自分にはない感性がありますよ」。

伝統工芸士の技と、現代の感性。津軽びいどろはこれからも、ガラスの新しい美しさを表現していきます。



北洋硝子株式会社

青森県伝統工芸士 芳賀 清二

1980年入社。ガラス展に幾度となく作品を出品し、東北ガラスアート展やあおもりクラフトコンペ、日本民芸公募展などで数々の賞を受賞。2007年には、青森県伝統工芸士に認定された。現在は、さらに自らの技術を磨きつつ若手の育成にも取り組んでいる。